

初心者のピアノ指導について

—幼児教育者養成校における実践研究—

長 井 春 海

Piano Teaching For Beginners

Harumi Nagai

<はじめに>

幼児教育者教員養成校には器楽（ピアノ・レッスン）の授業科目がある。

ピアノ・レッスンの授業で始めてピアノに触れる学生の指導に興味を持ち研究をしてきた。思考錯誤を繰り返してきた結果、当然のことではあるが、学生と十分な意思疎通をすること、ピアノ演奏基礎技能の目標を明確に示すことが重要であり、これらの初期指導が後のピアノ演奏活動に影響を与えることがわかった。今回は初心者のピアノ初期指導に焦点を絞り指導方法について述べてみる。

まず、学生と十分な意思疎通を図るひとつの方法として独自のレッスン・ノート（自己評価用紙）を考案し採用した（注1）。内容は①レッスンを受けた曲名、②指導を受けた要点、③自分の課題目標、④感想の4項目とし、レッスン終了後に毎回記載し提出することとした。ピアノ演奏基礎技能の初期目標としては（1）手をみない（2）指番号を守る（3）一曲を完璧に弾くことの3点を明確に示した。ピアノを弾くプロセスの分析を試みれば、楽譜を見て目で音符を読み、判断し、使用する指を確認し、鍵盤を打ち、打鍵した音が楽譜と一致しているかを耳で判断するという作業の連続と考える。手を見ながら弾く行為は打鍵した音を耳で確認する過程が欠落し、傾聴機能が作用しない結果を招くこととなり、手の触覚機能の発達妨げと

もなる。ピアノ演奏には指番号及び基本的指づかいの習得は不可欠である。また、一曲を正確に最後まで弾き通すには、判断力、反射力、運動力など極度の集中力が必要となる、そのために地道な努力と忍耐が要求される。それらの確認のためにレッスンが存在すると考える。どんなにゆっくりのテンポでも最後まで正確に弾き終えることが大切である。最初の取り組みが肝心で後から不正確なところを修正するのは数倍のエネルギーを使い、脳に記憶された情報の修正には多大な時間を費やすことになる。打鍵する前に考え理解し確認した後に指を動かす。無意識に指を動かすのではなく、意識的に読譜の作業を確認してから打鍵することが演奏基礎技能初期目標となる。

<ピアノ指導の基本的理念>

レッスンは教師と学生との信頼関係の上に成立する。その上で以下の理念を述べてみる。

1 学生の意識改革をする。

ピアノを弾くことは無理とか出来ない、今からでは遅いなど思い込んでいる学生が多い。そのような精神的抑圧を取り除き、やる気を起こすことが第一となる。レッスンを受けることが自分の才能を育てるチャンスと前向きな考えを持つように助言する。

2 ピアノを弾くのが楽しくなる。

スポーツ・ドクラターの辻秀一は楽しさにつ

いて「一生懸命に取り組むことそのものが、実は何よりも楽しい」(注2) 一生懸命さと楽しさは共存することの重要性を述べている。楽しくなる方法の中で学生の知的好奇心を満足させることは大切な要素となる。

3 自分をみつめる

現在ピアノが弾けないのはピアノを弾くことが出来ないのではなく、今まで弾く経験がなかったからだと理解する。そして成長していく自己を見つめ、褒め、己の可能性を信じるのが重要である。そして他者と競争するのではなく、自分の成長の経緯を見つめ、努力の成果に喜びを感じる。

4 ピアノで自分を表現する。

単に音符・リズムを正確に弾いても音楽にはならない事を理解し、自分の身体の内から沸き起こる音楽の感性を表現することを知る。自分の音楽を表現する。

<学生の実態>

本学では幼児教育学科入学時に音楽関係アンケートを実施している。内容は1入学以前のレッスン経験について、2レッスンを始めた動機、3教則本について、4ピアノ以外のレッスンを受けたかどうか、5高校での音楽履修状況である(注3) この集計結果を検討考慮し、器楽担当教員6人が各々6～8人の学生を指導している。次に音楽経験調査結果を示す。

筆者はレッスン経験0年～1年未満14名中の8名を担当した。

・経験年数——0年 5人

高校音楽履修状況・クラブ活動——なし

・経験1ヶ月(高校3年3月～)——1人

高校音楽履修状況——高校1・2年間

クラブ活動——打楽器中学・高校

・経験2ヶ月(高校3年2月～)——1人

高校音楽履修状況・クラブ活動——なし
・経験4ヶ月(中学3年4月～8月)——1人
高校音楽履修状況・クラブ活動——なし

<レッスン形態>

器楽の授業は一年次は必修科目である。全員が挫折することなく基礎技能を身につけることが出来るように配慮して、グルーブレッスンの形態をとった。

グルーブレッスンの利点は音楽の基礎知識の説明や演奏に対する動機付けなどの説明が共有できる、互いに良い刺激を受けて切磋琢磨する、初めての経験に挑戦する喜びをもつなど、全体的に学習意欲が高まることが期待できる。時にはピアノ演奏は出来不出来が明確に表され、それに対してお互いに競争意識が強くなる弊害もある。その場合は音楽演奏に対する本質を説明し、ただ単に進度を考えるのではなく、どの曲でも音楽的に表現するために自分なりに努力していくことの大切さを繰り返し説明し、丁寧に話し合いを持つようにする。

<レッスン過程>

器楽実技1年間の中でも特に入学からの3ヶ月間は特別の時期である。ピアノを弾くことの動機付けの時期であり、ピアノ演奏の姿勢が確立する時期でもある。第一課程から第三課程まで筆者独自の目標を設定した。この基礎課程の内容を示す。

<第一課程 ピアノを弾く楽しさを知る。指導者と連弾をする。>

- ・楽譜を読む……基本的指番号を知る。
- ・鍵盤……黒鍵盤、白鍵盤、中央ハと鍵盤の位置を確認する。
- ・音符……リズム表記として4分音符、二分音符、8分音符の等価の意味とリズム打ちを

音楽経験調査結果 (学生数41人)

経 験 年 数	0年～1年未満		1年～4年		5年～9年		10年～14年		計
	14人	34%	6人	15%	9人	22%	12人	29%	
音楽履修状況	4人	27%	3人	50%	4人	44%	7人	58%	18人
クラブ活動	2人	14%	3人	50%	3人	33%	7人	58%	11人

- し、音程表記として楽譜の読み方、ト音記号、ヘ音記号、大譜表を理解する。
- ・拍子……いろいろの拍子を経験する。4分の4拍子 4分の2拍子
- ・和音……カデンツを弾く。ハ長調、ト長調、ニ長調、イ長調、ホ長調、ヘ長調などのカデンツを鍵盤上で知る。
- ・音階……音階の指使いを知る。

＜第二課程 友人との連弾を楽しむ、合わせる楽しさを知る＞

- ・記号……フレーズ、スラー、スタッカートなどの表情記号や演奏方法を理解する。
- ・リズム……いろいろのリズムパターンを知る。
- ・音階を弾く……ハ長調、ト長調、ニ長調、イ長調、ホ長調、ヘ長調
- ・たくさんの曲を弾く……連弾曲のPrimopパートから及びSecondndパートを弾く

＜第三課程 独奏曲を弾く、音楽の自立 自分を表現する＞

- ・基礎課題曲として「河は呼んでる」「聖者の行進」を弾き、暗譜する。

＜教材＞

学生の親しみやすい曲、基礎技能目標に適した曲、幼児教育学科の特徴に配慮した曲を選曲した。教材は基礎曲と応用曲を用意し、学生の状況や進度に合わせて適宜印刷して配布した。

- ・基礎曲は全員が同じ課題に取り組むこととした。

- ・応用曲は連弾曲を使用。事前に楽譜を配布し、その中から学生選する。

始めに Primo パートを弾き、指導者と連弾で音楽する楽しさを共有する。次に Secondo パートに進み友人と連弾を楽しむ。

次に曲名を示す（注6）

指番号の確認——ちょうちょⅠ、ちょうち

よⅡ、マーチ、ぶんぶん

指づかい変化——むすんでひらいて、きらきら星

リズム変化——靴屋の踊り

指のポジション変化——そよかぜ

指づかい変化・臨時記号——ライオンの大行進

指のポジション変化——手をたたきましよう

8分の6拍子——花の曲

4分の3拍子——かっこう

4分の3拍子・弱起の曲——あおぞら

2分4分8分16分音符使用——ロシア風の主題

ヘ長調——十人のインディアン

ト長調——メリーちゃんの子やぎ

ト長調——ポジション変化 かわいいアウグスチン

＜実際の指導方法＞

実践例1：第一課程

教材（注7）

ねらい ☆指を動かす。音符を読む。鍵盤の位置を知る。

方法

- 1・リズム打をする。身体のいろいろな部分を使ってリズム打ちをする。
 - ・手でリズムを打ち、足で拍打ちをする。
 - ・口でリズムをとり、手で拍打ちをする。
 - ・右手でリズムを打ち、左手で拍打ちをする。
- 2・階名唱を行う。大譜表の表記と鍵盤の関係及び階名を説明する。
 - ・階名唱を行う。
 - ・足では拍打ちをしながうたう。拍手をしながうたう。
 - ・右手の指番号でうたう。



II

III

IV

V

- ・机上で指を動かしながらうたう。
- ・ピアノを弾く

実践例2：第一課程
教材（注8）

I

III

II

IV

- 3・ピアノ A と B 2 台を使用する。
 - ・ A ピアノで旋律譜を弾く。
 - ・ 安心感を持つために、片手弾きの場合は旋律を 2 人で弾く。
 - ・ 片手で弾けるようになったら両手で同じ旋律を一人で弾く。
 - ・ B ピアノで伴奏譜を弾く。
 - ・ 伴奏譜は最初から両手弾きを行う。
- 4・レッスンのまえに指運動指慣らしとして楽譜なしで和音を弾く。
 - ・ 2 台のピアノに 2 人づつ 4 人が座り、ハ長調の和音 I ドミソ、和音 IV ドファラ、和音 V ソシレの位置と指番号を確認し、レッスン前の 10 分指の体操を行う。2 拍子、3 拍子、4 拍子と変化をつけて弾く。

<レッスンノートから>

レッスン・ノートから 8 人の感想文を転載する。

①

- 4・16 難しかったです。
- 4・30 右と左で指番号が違う曲は初めてでうまくできなかった。
- 5・20 ロシア風の主題ではゆっくりとしたテンポから早いテンポで直ぐに弾いてみたがなかなかきちんとできたと思う。伴奏と合わせると楽しい。
- 5・13 自分で練習しているときにできたと感じていても、先生やみんなの前で弾くとできないことが多い。どんな場面でも落ち着いてゆっくりと弾けるように心がけようと思う。
- 6・10 バイエル 66 番を練習したてのころは、こんなに複雑な指の動かし方を一定のリズムで弾けるようになるのかとても心配だったが、次第にできるようになってきて嬉しい。先生の前では間違えてしまいそうだなと思っていたが、ゆっくりと弾いてみると大丈夫だった。自分には音楽的なセンスが全くないとおもっていたけれど、ピアノを弾くとき自然と身体や手がリズムに沿って揺れているといわれてとても驚いたし、それ以上に嬉しかった。
- 6・24 バイエル 66 番の暗譜がうまくいって本当に良かった。この曲は割りと直ぐ弾けるようになって、それが嬉しくて何回も弾いていた。調子がいいなあと思っていたけれど、本番では

こんな調子がだせるのかと少し不安だったので達成できたときはホットした。

7・1 バイエル 73 番はとても難しそうでスラスラ弾けないかもしれないと最初に思ってしまい、夢中で何も考えずに練習していたけれど全体的に手や指の動きを見て、“ああこれはポジションを 1 つづらせばいいのか” というような動きの前後のつながりが頭に入っていなかった。ピアノは手だけでなく頭も充分に使って演奏するものなのだなあと思った。

7・8 バイエル 73 番の練習のとき、かなり指を見ながら弾いていた。広い距離でのポジションの移動があるから見てもいいだろうと少し自分に甘くしてしまった。しかし、授業で見なくても出来るからだいじょうぶだと言われたので見ないで練習してみたら、以外にあっさりと達成できた。自分で越えなければならないハードルを低くして自分で自分の限界を決めてしまっていたなあ・・・と反省した。

9・2 音に強弱をつけるだけでも曲はかなり違う感じにきこえるのだなあと感じた。先生が弾いているときにも実は曲に表情がついていたのだといまさら気づいた。

1・13 今まで無表情だった曲に段々と表情がついてきて嬉しい。うまく表現できるように練習を地道にやりたい。

②

4・22 初めてだったけど、いろいろな勉強をした。まだ片手しかできないけど自分なりのペースで上手になれたら嬉しい。

5・6 最初より 3 回目ですり少し弾けるようになってきて、嬉しいし、また、もっとがんばろうと思う。

5・13 今回は練習を少ししかなかったのですが、緊張して焦ってなんども音を間違えてしまった。左手の指替えが苦手なようなので、しっかり練習して、頭でも身体でも覚えるようにする。

5・27 家やピアノ室で練習しているときはなかなか良く弾けるけど、先生の前だと緊張して失敗が多くなる。人の前でも堂々と弾ける、しっかりした強い気持ち(度胸)を身につけないとだなあと思った。

6・3 最近、みんなすごく上手になってきて

て、実はすごく焦っています。先生は焦らず無理せずにやりなさいといっていたけれど、やっぱりみんなについていけなくなるのが恐ろしいから、必死にやっけてしまいます。でも上手に弾けたときはすごく楽しいし、もっと弾けるようになりたい！って思うから、楽しみながら、一歩ずつがんばろうと思います。

6・10私は〇〇さんのようにリズムを感じて引けなくて弾くことに一生懸命になりすぎているので、もっとゆっくり、音を感じながら弾けるようになりたいなあと感じました。

7・22夏休みに入って、バイトもありなかなか練習を長くはできないけど長くやるより毎日少しずつやるほうがよいのだと感じました。〇〇さんは進むのも早く、でも上手で、私も頑張って夏休み中に〇〇さんくらい上手になりたいなあと思いました。

8・4まだまだだと思う。もっと落ち着いて弾くことを実につけないと上達できないなあとつくづく感じました。

10・4実際に自分だけで練習したのではダメなんだとつくづく感じました。

10・7もっと練習しなくてはいけないなあと思いました。少し自信がなくなったけど、ここで負けてはダメなのでがんばります。

10・28練習を毎日することが本当に本当に大切なんだなあと感じました。今回は前回と違って時々やらなかった日もあったのでそれが響いたのではないかと思います。

11・11練習すればするほど弾けなくなって、先生に見てもらうのは大切だと思った。

1・13今頃になってむずかしさを実感してきました。なかなか練習もできなくて不安がいっぱいだけど、できるかぎりをつくそうと思います。

11・25まだまだあせらずゆっくり弾くことができません。これからは自分との戦いなので、少しずつピアノが上達していけるように頑張っていこうと思います。

12・2今日はとてもよく弾けたと思います。バイエルもあと残りわずかなので今日のようにしっかり弾いていこうと思います。

③

5・20何回も練習するとはじめ全く弾けな

った曲が音や指を間違えず最後まで弾けるようになって楽しくなってきた。

6・10今回は練習してきたのに全然弾けなかった。皆さん上手なのでひとり進まなくて不安です。

6・24 なぜか早くしなきゃと思い焦ってしまうのが嫌でした。

バイエル66番が出来て本当に良かったです。少しづつでもしっかり練習すれば出来るようになるんだと嬉しかったです。みんなにすごいと言われ手のふるえがひどくなったくらい緊張しました。

7・8先輩のピアノが聞けてよかった。ピアノは弾く人によって違いがでるし、その人の気持ちさがすごく現れるものなんだと実感しました。

8・遅れているのが当たり前なのに焦ってしまい人と比べたりして自分で変なプレッシャーをかけてしまっていたから、確実に丁寧に弾くことが出来なかった。今の時期正確に基礎をゆっくり見につけようと思います。

10・7気持ちが入っている人の曲はキレイだ。

10・21自分のペースで正確に進んでいこうと思う。

10・弱く引きたいのに力が入ってしまい、強くなったりしてしまう。

1・13表情をしっかりつけて指先の神経を使って練習する。

④

4・16指番号のまま、指がうまく動いてくれなくて苦戦しました。音符のしくみが少しわかった。これからうまくなろうと思った。

4・30左手は難しかった。できると楽しいけど、できないとくやしい。

5・6新しいことをしたのでパニックだった。左手が言うことをきいてくれなくて大変だということがわかった。慣れるしかないと思った。

5・27音の大きさと自分の気持ちや感情が表れてしまうことがわかった。あわてないでゆっくり正確にやると出来ることがわかった。先生にほめられると自身がつくのでいっぱいほめられるように練習がんばります。

6・3今日は先生にほめられて終われてとても気分が良かったです。まだ音符の音の長さを理解していないのでしっかり理解したいです。姿

勢のことを教えられたので次から気をつけたいと思いました。褒められると嬉しいしやった分だけ先生の反応もいいのでいっぱい練習しようと思います。友達同士でわからないところを教えあったりすることも大事だと思いました。

6・24今日は先生に何度も言われてもできなくて悔しかった。次回はしっかりできるように練習しようと思った。バイエル66番の暗譜が完璧に決まってうれしかった。

7・1今日は泣いてしまってすみませんでした。

8・19今日は楽しく出来てよかったです。他の人が言われたことでも、聞いていて自分が弾くときに気をつけると力がつくなと思いました。今日は先生に褒めてもらって嬉しかったです。みんなすごく練習してきていて、すごいなと思ったし、自分の練習量の少なさを実感しました。1人がうまく行くとみんなうまくいくみたいで、その逆もあっておもしろいなと思いました。

9・2今まで記号などに注意せずに、弾ければいいと思っていましたが、今日、みんなのを聞いていろんなことを学べて曲が弾けることが、曲を完成させることとは違うんだということが分かりました。

10・7だんだん弾けるようになると、楽しくなってきた練習量も増えた。この人には負けたくないという人をつくると思った。みんなそれぞれに完璧に練習してきていてすごいと思った。

11・25自分の手なのになかなか動いてくなくて、練習も投げ出したくなったが、ブルグミュラーに進むことが決まったし、もっとうまくなりたいのでバイエルを納得いく形で終われるように頑張りたい。

12・2クリスマスコンサートが近づいてきて練習量をはるかにへったと思う。忙しいがみんな同じなので空き時間を有効に使って練習していきたい。

⑤

4・30指番号の切り替えがなかなか出来なかった。鍵盤から指を離すタイミングが難しかった。

5・6どうしても指を見てしまうので、見ないで弾くように練習していきます。間違ってもあ

わてずに落ち着いて弾くように心がけます。

5・26みんなより少しおくれるので追いつけるように頑張りたいです。

6・9確かにわたしは楽譜よりも感覚で弾いているように思った。正確に楽譜が読めるようにしていきます。

6・22今日のレッスンで自分があまり楽譜を読まずに弾いているということを実感した。ちょっとした変化に気づかず間違って理解したまま弾いているのでしっかりと楽譜読み正しく理解してから弾くようにしたい。

7・8指を見ずに弾けた。じぶんも少しづつ成長しているのだなと思った。

7・22自信がない音になってしまうので、もっと自信を持って大きな音で弾くようにする。

8・19指番号や音の間違いが多いので楽譜をしっかりと読み正確に弾くようにしていきます。

8・25いままではメロディーと伴奏の強弱をあんまり意識しないで弾いていたので、実際に強弱をつけて弾くと両手に力が入ってしまいとても引きにくかったです。でも強弱をつけることできれいな音になるので、表情をつける弾き方を練習していきます。

9・2自分のなかで、どのように弾くかイメージして強いところは体重を乗せて大きな音で弾き、小さいところはちいさすぎない程度で弾いてゆきたい。

10・21練習時間が少なかったことを文化祭のせいにしていて自分が凄くみっともなかった。これからはどんなに忙しくてもピアノを弾こうと決心した。

11・24久しぶりのバイエルだったので指づかい通りに弾くのが難しかった。

12・9大きな音で弾けるようになってきたのでこの音を忘れずに弾いてゆきたいと思う。大きな音で弾けるようになってから、気持ちよくピアノが弾ける感じがした

1・13ペダルを踏むタイミングがずれているため音が急に切れるような感じになってしまいとても気持ちが悪い。踏みなおすタイミングを早くするなどしてタイミングを掴み、スムーズに弾けるようにしていきたいと思った。

⑥

4・30 ツメが長すぎたり、姿勢が悪かったりと、ピアノを弾く前に直さなければいけないことがあるので、姿勢に関しては日々の練習のどこから気をつけて生きたいと思いました。

5・6 練習で出来たところが出来なかった、緊張したんだと思う。

5・27 どの曲においても指の移動をスムーズにしたい。

7・8 を見ないように隠された。それほどに私は指をみながら弾いていたんだと思います。クセにならないうちに直したいと思います。

7・10 今回はあんまりしていなかったの自信がない音になってしまった。

10・7 フレーズをきることで曲がきれいに聞こえました。

10・21 他の人が同じ曲を弾いているとじぶんはこう弾きたいなと違う部分を見つけられます。

10・28 指づかいによって、音と音がつながってきれいになるんだなと実感しました。

⑦

4・16 はじめてで緊張した。

4・30 基本的なことがしっかりできるようにになりたい。集中してやりたい。

3-「聖者の行進」の前半はできたけど後半は難しそう。音をどこまでのばすのかしっかりかぞえる。

4-指を見ないで移動するのがあまりできなかった。

5-「河がよんでいる」が難しかった。後半部分がもっとスラスラ弾くけたら良い

6-「聖者の行進」が1回でできなかった。次にやるバイエルは難しそうだ。ロシア風の主題はやっていて楽しかった。

7-最初の時より緊張してきて、もっと力を抜いて弾きたいと思った。

8-6・9 先生のはなしを沢山聞いた。だんだん内容が難しくなってきた。自分が上手になったのかわからなくなってきた。

9-暗譜ができてよかった。バイエル73番を両手でできるのか心配。努力はする!

7-1 練習を沢山したのにあまりできなかった。表情をつけていくのが難しかった注意されたときはわかるけどいざ弾いてみると出来な

ったりしたから、ちゃんと考えながら弾かなきゃだめだと思った。

7-8 バイエル74番は指の動きは難しくないけど長いから集中しないとすぐ間違えてしまう。今日は指を見ないでできたのでこれからは意識してみないようにする。

8・4 同じところを何回も間違えてしまったとき先生がヒントをくれてそれを考えながら弾いたらすぐできたので考えながら弾くことは大事だと思った。

1・13 曲になれたけど気を付ける点やこういうふうに弾くというイメージをしっかりと持って弾く。本番はもう少しだから時間を見つけてちゃんと練習する。

⑧

4・21 自分が一番下手だと思った。

5・13 先生の指運動をみてビックリした。自分も出来るか不安だった。

6・9 先生の話聞いてゆっくり弾く大切さを知った。

6・24 楽譜を見ずにピアノが弾けていると褒められたこの調子でいこう!

7・1 先生に指を見ないで弾けていると褒められた。今までの練習の仕方が認められて良かった。今後もゆっくりと何度も反復練習をしようと思う。「靴屋の踊り」は知っている曲だったが、あせって付点4分音符が4分音符になってしまうしっかり頭の中で考えて弾きたい。

9・2 バイエル80番はやっぱり難しい。○○さんのように表現して弾くところまではとてもいけない。次は暗譜するので最後までしっかり覚えたい。

<おわりに>

今回は、初期3ヶ月の指導内容を示した。指導者は一回一回のレッスンが次の課題に取り組む意欲の源となるような工夫が必要である。筆者は個々の曲について何を習得して欲しいか等を常に説明しているが、学生の理解度を計ることができなく悩んでいた。レッスン・ノートを導入したことによって、指導に対して学生の認識や考え方及び学習意欲などが具体的に示された。どのような意識課題をもって練習に励み、レッスンに臨んでいるか等取り組む様子も確認

できる材料となった。今後ともレッスン・ノート
を継続し考察を続けながら模索してゆきたい。

器楽試験は1年次前期9月・後期1月、2年
次前期7月・後期1月に実施しているが、初心
者が最後に演奏した曲目を紹介する。

・経験年数0年の5人

1・モーツアルト・ソナタ K545-1 楽章

SONATE.



2・ソナチネ クレメンティ OP36 - 1 楽章

Sonatine



3・エリーゼのために (ベートーベン)

[エリーゼのために]: Poco moto

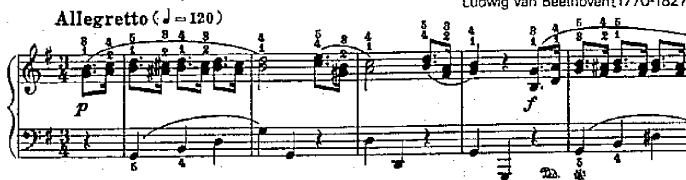
ベートーベン 作曲



4・ト長のメヌエット (ベートーベン)

ト調のメヌエット
Minuet in G

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン
Ludwig van Beethoven [1770-1827]



5・荒野のバラ (ランゲ)

荒野のバラ
Heather Rose

グスターフ・ランゲ
Gustav Lange[1830-89]
Op.78-3

Andante cantabile

mf dolce

legato

・経験1ヶ月(高校3年3月～)

6・花の歌 (ランゲ)

花の歌
Flower Song

グスターフ・ランゲ
Gustav Lange[1830-89]
Op.39

Lento moderato

mf espressivo e cantabile

・経験2ヶ月(高校3年2月～)

7・ソナタ長調 (ベートーベン)

SONATE G-dur

Beethoven, Op.49, Nr.2

Allegro, ma non troppo

f p

・経験4ヶ月(中学3年4月～8月)

8・ソナチネ (ベートーベン)

Sonatine

L.van Beethoven

Allegro assai

f p

(注1) レッスン・ノート

回 月 日 1・2年 № 名前

曲名	
指導要点	
課題目標	
感想	

(注2)「コーチカ」P23 辻秀一著株式会社ヤマハミュージックメディア

(注3)音楽経験調査用紙

(注4)「楽しくすすむピアノ教本」佐々木基之著 東京音楽書院

P 6～43の中から抜粋した曲

(注5)バイエル教則本 66番～90番 保育士免許資格試験の課題曲がバイエル教則本 70番～90番の範囲なので教材にしている。

(注6)連弾のよろこびⅠ・Ⅱ 渡部麗子・遠藤春海 東京音楽書院

わたしはピアニストこどものうた連弾曲

集田中雅明 全音楽譜出版社

ディアベリー連弾曲集Ⅰ 全音楽譜出版

(注7)「楽しくすすむピアノ教本」より 著佐々

音楽経験調査 授課(器楽個人レッスン)のクラス分けの参考資料となります。

1学年 番 名前

1.これまでのピアノレッスン経験について

- ・ない ・ある
- ・幼児期 才 ～ 才 年間
- ・小学校 学年 月 ～ 学年 月 年間
- ・中学校 学年 月 ～ 学年 月 年間
- ・高校 学年 月 ～ 学年 月 年間

2.レッスンを受け始めた動機について

- 1.自分が習いたかったから 2.親に進められて
- 3.兄弟が習っていたから 4.友達が習っていたから
- 5.電子オルガンを習っていたから 6.受験に実技があったから
- 7.その他

3.教則本について

- ・現在使用している教則本はありますか
教則本名
- ・いまままでに使用した教則本はありますか
教則本名

4.レッスンについて

- ・現在個人でピアノのレッスンを受けていますか。
ア受けていない イ受けている
- ・ピアノ以外のレッスンを受けたことがありますか
- (音楽関係)
- 1.オルガン 2.電子オルガン 3.バイオリン 4.フルート 5.琴
- 6.声楽 7.その他
- (音楽関係以外)
- 1.書道 2.珠算 3.バレエ 4.華道 5.茶道 6.学習塾
- 7.その他

5.何か楽器を演奏しますか

- ・いいえ ・はい 楽器名
- いつごろ

6.高校で音楽を履修しましたか

- ・いいえ ・はい ◇1年生 ◇2年生 ◇3年生

木基之 東京音樂書院

樂譜 I : P 6-(1)、樂譜 II : P 7-(1), 樂譜 III :

P 12 -(1).

樂譜Ⅳ：P 13-(1)(2)

(注8)「楽しくすすむピアノ教本」より 著佐々

木基之 東京音樂書院 奏譜 I : P 6-1.

樂譜Ⅱ：P 7-2, 樂譜Ⅲ：P12-7,

樂譜Ⅳ：P13-8